

戦前の択捉写真市に寄贈

【根室】小樽商科大学学術研究員の高野宏康さん(42)＝歴史民俗資料学＝が、昭和初期の択捉島の水産加工場の作業風景などを撮影した貴重な写真を市に提供した。市は提供写真を4月以降、納沙布岬の北方領土資料館に展示する。

樽商大・高野研究員
来月以降展示へ

さんの持ち物だった。アルバムには約70枚の写真が貼られ、択捉島の風景などのほかに工場で作業員が魚を切り分けたり、米国製最新式機械で缶詰を製造する様子などを写したのもあった。択捉島の元漁業者団体、択捉島水産会(函館)の駒井惇助代表管理役(83)は「当時の水産加工の実態を記録した貴重な歴史資料」と評価する。



曾祖父愛吉さんが残したアルバムを広げる高野宏康さん

市から昨夏要請を受けた高野さんは快諾し、工場内などの十数枚を電子データ化し、市に提供した。関係先へのあいさつ回りや研究テーマである北前船に関する調査などのため28日に根室入りし、30日には長谷川俊輔市長とも会う予定。高野さんは「当時の島の実態の様子を伝える資料として広く紹介していただけることになりうれしい」と話している。

(相内亮)